

平成 25 年静岡大成中学校 学校評価書

評価対象	評価項目	具体的取り組み(計画)	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価点	学校としての反省と改善策	評価点	意見
1. 基本的生活習慣と基本的模範意識の確立を図る。	社会や家庭、学校のルールをしっかりと守らせる。	お互いが安全で心地よく生活していくルールについて、生徒・家庭・教師それぞれが真摯に向き合っていくことで信頼関係を築きながら共通理解を確立する。	A	社会で生きていくための基本的な心構えや態度を育むことは、本校の教育における最重要項目と捉え、生徒と向き合ってきた。皆が安心して生活を送るためにどうあるべきかについて、日常的に指導し、時には集会や道徳の時間を利用して考えさせた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣関係については、自己評価率からも判断できるように後期には飛躍的に伸びている。先生の指導の賜物と同時に、本校はスターライトという特別な教育方法を採用しており、夕食や勉強を共にすることによって、団結力や生徒間の意思疎通が図られているのではないと思う。今後もしっかりとやってください。 挨拶や身の回りの整理整頓は、下級生が上級生を手本としているとのことである。素晴らしいことであるが、風紀検査の実施等にも油断をしないよう是非お願いしたい。 中学1年生は机の上に物が置いてあったりするが、中学2.3年生の教室はきれいに整頓されている。指導の成果が伺える。 知らない人に対して‘こんにちは’以外に‘お疲れさま’や‘ありがとうございます’など、様々なあいさつをしており、好感が持てる。
	あいさつをしっかりとできるようにする。	礼法の授業の中で「礼の心」を習得し、部活動や日常生活の中で実践していく。挨拶の励行については教師が率先垂範し、生徒の実践に繋げていく。	A	礼法の授業の中でマナーの基本を習得し、部活動や日常生活の中でそれが実践できてきている。外部の方からも高い評価をいただき、集会等で褒めることも多く、生徒の自信となっている。	A	
	服装や頭髪を正しく整えさせる。	月1回の風紀検査だけでなく、服装容儀については日常的に目を配り、指導していく。	A	ここ数年最上級生の服装に関する注意を必要としなくなっているため、下級生は指導しなくても上級生を手本としている。	A	
	身の回りの整理・整頓、校内美化に自主的に取り組めるようにする。	身の回りの整理・整頓が学習への集中力につながることを理解させる。掃除や校内美化については、自主的に行動することで奉仕の心を身につけさせる。	B	上級生はおおむね実行できているが、1年生の中に数名ルーズな生徒がいる。今までに身につけている習慣を直すには時間がかかるが、根気よく指導していきたい。	B	
	時間厳守の習慣化に努める。	常に5分前行動の励行を呼びかけていく。集団行動・集団生活の中で最も大切なことが時間を守ることだという認識を持たせる。	A	集団行動においては常に5分前行動の励行を呼びかけている。集合時間については、生徒はかなり強い意識を持ち、ルーズな生徒はいないと自負している。	A	
2. 授業改善に努力し、学力の一層の向上を図る。	わかりやすい授業の工夫に心がけ、チャイムと同時に授業を開始する。	各教科独自の効果的な学習方法を教授し理解させる。学校生活は授業が最優先だという意識を持ち、チャイムと同時の授業開始を徹底する。	A	教科担当に任せっきりでなく、クラス担任も加わり、常に学習内容の理解度チェックができています。また、「授業最優先」の意識づけのもと、チャイムと同時の授業開始が実践できています。	A	<ul style="list-style-type: none"> チャイムと同時に授業を開始できるよう指導しているとのことであり、先般視察した折も概ね守られていたが、一つの方法として、チャイムを鳴らさない方法もある。検討してみてもいいのではないかと。 授業公開に多くの保護者が来られるが、自己評価率を見ると先生方の意識には苦手意識があるかもしれない。是非、校内で検討してもらいたい。 自己評価と授業アンケートを基に、これまで3月に実施してきた各教員との校長面接を秋に実施し、後期の教師の指導改善に役立たせたのはよかった。 自己評価と授業評価アンケートを実質的にリンクさせ、教員指導に当たっていることはとても評価できる。授業評価アンケートは、人気ランキングに陥るとか主観的すぎるといった非難もあるが、やはり、全教員を比較すると相当程度客観的な状況が浮かび上がる。そういう面では今後も十分役立てていってもらいたい。
	課題・ノートの点検・確認テスト等、学習内容の基礎の定着を図る。	宿題の未提出や学習内容の未理解部分は、放課後の居残り学習で徹底させる。毎日1Pノートに取り組みさせることで家庭での学習習慣を定着させる。	A	教科ごと異なる点はあるが、通常においてはノート点検や確認テストを実施。提出物や学習の未理解部分は教科担任だけでなく、クラス担任も介入して徹底させるよう取り組んでいる。	A	
	夜間学習(スターライトクラス)の充実に努める。	実力問題・応用問題に対処できる力を育てる学習に焦点を絞り、高度な内容を理解させ定着させる。また競争心や忍耐力、励まし合いの構築に役立てる。	A	実力問題・応用問題に対処できる力を育てる学習に焦点を絞り、高度な内容を理解させ定着させる貴重な時間である。競争心や忍耐力また穏やかな人間関係の構築に役立っている。	A	
	教材研究や授業公開に積極的に取り組み、「授業力」の向上を図る。	保護者への公開授業だけでなく教員同士でも授業を積極的に参観し意見を仰ぐ。そこで得られる感想やアドバイスを授業内容の更なる充実に活かす。	A	授業公開週間には積極的に保護者をお迎えし意見を仰いだ。そこから得られる学校への要望や感想を授業に対する助言と受けとめ、事後の指導に生かしている。	B	
生徒による授業評価を真摯に受け止め、授業の改善に努める。	生徒の評価を真摯に受け止め、改善点を見つけ、今後の授業に活かしていく。評価を受けているところは教師としての自信につなげていく。	B	素直な中学生の評価を真摯に受け止め、努力個所や改善点を見つけ、授業に生かしてきた。引き続き、「わかる授業」の実践を心がけていきたい。	A		

評価の基準 A 達成できた B おおむね達成できた C あまり達成できなかった D ほとんど達成できなかった

評価対象	評価項目	具体的取り組み(計画)	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価点	学校としての反省と改善策	評価点	意見
3. 進路意識の高揚と高い志のある進路目標の実現に努める。	第1学年は自己理解とともに将来を見通した進路意識・目標作りをする。 第2学年は目標達成のための学力を充実させると共に職業観を養う。 第3学年は目標達成のために能力を最大限発揮させ進路の実現を図る。	第1学年は、「静岡大成中学生としての自覚と誇り」を育み、基本的な生活習慣の定着とともに自分の将来について考える。 第2学年は、中堅学年としての責任感を養うとともに、将来の目標を実現させるための生活態度・学習態度を確立する。 第3学年は、職業観をより具体化させ、様々な学習活動の中で、夢を実現させるための進路を開拓させる。	A	激しく変化する社会において自己を生かすには、生き方の幅を広げなければならず、その手段として学習が大切であることへの理解を促した。また、高校進学が最終目的でないことを意識させるために、社会性や職業観についても指導してきた。学年を追うごとに学力も充実し、本人の思いとともに父母の理解協力を仰ぎながら最終進路先を決定している。生徒一人ひとりの進路に責任を持ち、最後まで向き合う姿勢を大切にしてきた。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・公立には相当レベルの異なる生徒が集まってくるが、本校は比較的成績優秀でかつレベルの接近した子供たちが集まっている。その意味では、公立より指導が比較的しやすいかもしれない。 ・本校は公立高校の受験も幅広く推進されているが、生徒には公立高校合格が最終目標でないことも強く意識づけられているようである。本年度も、併設校（大成高校）から県内国立大学や難関私立大学の合格をはたしており、この方針を維持していてもらいたい。 ・スリーライト（スターライト、サンライト、トワイライト）は本校の特色であり、特にスターライトは夜の8時半ごろまで勉強している。生徒も大変であるが、先生方もご苦勞ですが、是非、継続していてもらいたい。
	適切な指導のために、常に進路に関する情報や知識の習得に努める。	校内テストだけでなく、外部模試を活用し、テスト結果を基に生徒一人ひとりの学習成果を点検し、その後の取り組み方を定期的に指導していく。	A	外部模試のテスト結果を基に一人一人の学習を点検し取り組み方を改善させている。また、理解できていない部分をそのままにせず誤答ノートの作成を徹底させた。さらに、身近な先輩や卒業生の新鮮な情報を提供し、目標を明確化させてきた。	A	
	進路の実現に向けて最大限のバックアップができる体制作りを心がける。	普通の授業に加え、サンライトクラス(長期休暇中の進学補習)・スターライトクラス(夜間授業)、また3年生の夏休み明けに始まるトワイライトクラス(放課後補習)を実施する。	A	3年生については、普通の授業に加えサンライトクラス・スターライトクラス、さらに9月から引退した部活動の時間を利用したトワイライトクラスを実施してきた。入試が近づくと中学部の教員を総動員し、面接指導にも当たってきた。	A	
4. 部活動・生徒会活動などの課外活動や学校行事の充実とそれらへの積極的な参加を促す。	部活動の活性化に努め、学生生活に潤いと活力を与える。	運動の苦手な生徒もいるが、全員運動部に所属し、文武両道を目指しに努力することで、忍耐力や協調性を身につけさせる。	B	数が限られていて、希望する部活を選択できない生徒もいるが、どれも甘えの許されない部活である。思い通りにできないことも多い中で、精神的強さが身に付く。文武両道が上手に生かされ、部活で生き生きできる生徒は学習にも自信が生まれている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中学はスターライトを実施しており、長時間の勉強体制ができています。したがって、運動部は強制加入ではあるが、いわゆる部活動というよりも、体を動かす時間の確保するという観点から、しっかり身体と精神とのバランスを図ってもらいたい。 ・部活に携わる教員数の問題もあるので、強制加入ではなく、部活動に入らずに体を動かす時間を設けるといった方法も検討していいのではないかと。学活などで運動してみてもどうか。
	学校行事を通して、クラスや学年の団結力を強め一体感を図る。	学校行事を帰属意識につなげるだけでなく、行事を生徒会の活躍の場とすることでリーダーシップを身につけるとともに、上級生への敬意を持たせる。	A	学校設定行事以外にも、中学校独自の行事を多く計画しているので生徒たちの楽しみとなっている。またほとんどが生徒会主催で運営される。クラス・学年・縦割り編成など行事の内容をその都度考慮して実施するため盛り上がりの要因となっている。	A	
5. 学習習慣の確立を目指し、中学部の結束と充実を図り中学生を豊かに育てる。	学習支援体制を強化し、確かな学力につなげる。	学習に関して、生徒が質問しやすい雰囲気を作り、未理解問題については本人が理解できるまで様々なアプローチで説明・教授を続ける。	B	授業中だけでなく、休み時間や放課後に多くの生徒が、職員室に質問に来る様子が日常的に見られる。どの先生も丁寧に教えているが、部活や校務分掌の関係で、十分な時間が確保できないことが残念である。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援について、部活や校務分掌で十分な時間が確保できないということであるが、視点を変えて、少ない時間の中でどう工夫するかを検討したらいかがだろうか。 ・先生方の学習への取り組む姿勢は充分評価できる。本校の生徒は学習に関して積極的であり、是非、この姿勢をうまく吸い上げて、さらなる努力をお願いしたい。
	朝自習の計画的に取組み、級別テストで学習意欲を高める。	級別テストを題材に、合格を目指して地道に努力する姿勢、クラスメイトとの競争心、合格したときの達成感を味わいながら、基礎学力の定着を目指す。	A	基礎的な学習内容を定着させるために、級別テストは非常に効果の感じる取り組みである。上級合格者を集会等で表彰することによって、多くの生徒のやる気につながっている。	A	

評価の基準 A 達成できた B おおむね達成できた C あまり達成できなかった D ほとんど達成できなかった